

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

320-617

事務事業名	市立病院運営事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)
部等名	市立病院	課等名	経営企画課		包含する細々目	72					99	12,721,623
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり											
施策	32 医療の充実											
実施区分	継続	会計	病院事業	環境調整会議	不要	関連計画		条例等				
		事業期間	年度～	年度								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	二次医療圏(飯田下伊那地域)の住民及びその他の飯田市立病院利用者	飯田市及び下伊那郡の住民(人口)	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		23年度以前に終了は終了年度とする
			177000	177000		
			現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)				
当地域の医療圏において適正な医療が受けられる	患者満足度調査 外来患者満足度	18目標	最終目標		95	
		18実績	87	19目標	90	↑
		23目標	95	23実績		最終目標達成年度
	患者満足度調査 入院患者満足度	18目標	最終目標		95	
		18実績	92.1	19目標	93	↑
		23目標	95	23実績		最終目標達成年度

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	二次医療圏(飯田下伊那)の中核病院として、地域医療の充実に取り組む。 病院の概要 一般病床403床 感染症病床4床 診療科目 23科 医師数 88名(研修医含む) 職員総数617名(臨時職員含む) 中核病院及び公立病院としての取組 患者中心の医療を実践 診療体制の充実 医師、看護師等の充実 救命救急医療の体制整備 高度医療の充実 産科問題への取組 医療事故防止 病院経営の健全化推進 DPCへの移行 がん診療連携拠点病院としての取組 職員が誇りを持って働ける職場環境 医療機関の連携推進 地域医療支援病院	経営健全化に向けての取組を強化し、収益の増大と費用の節減を進めた結果、病床利用率の向上や入院・外来の単価の上昇などにより、前年度と比較して医業収益として9.4%の増収、約3億6千万円の収支の改善に結びつけた。 産科を守るための積極的な対応、PET-CTの導入やリニアックの更新などによる診療体制の充実、救命救急医療への取組、医師や看護師の確保などに積極的に取り組んだ。研修医の確保については、前年度より3名多い13名を受け入れた。	外来患者数 入院患者数 病床利用率(決算統計) 救急車受入件数 分娩件数	249,431人 126,785人 92.5% 2,735件 1,003件
	当地区の中核病院として、地域医療の確保と医療水準の向上を進め、安全・安心で質の高い医療を提供するとともに、健全経営に向けて取り組む。 診療体制の充実 医療事故の防止 健全経営の推進 DPC移行への対応 がん診療連携拠点病院としての取組 職員が誇りを持って働ける職場づくり	外来患者数 入院患者数 病床利用率(決算統計) 救急車受入件数 分娩件数	250,000人 133,000人 97.0% 2,700件 1,000件	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定		
	国庫支出金	13,000	7,200
	県支出金		4,500
	起債	624,500	461,900
	その他	9,306,943	10,778,023
	一般財源	1,170,000	1,480,000
事業費計(A)	11,114,443	12,731,623	
人件費	正規職員所要時間	18年度	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	0	0
	トータルコストA+B	11,114,443	12,731,623

特定財源内訳や補足事項	国保調整交付金 ・病院事業債 充当率100%
-------------	---------------------------

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	地域住民の医療福祉の増進、高度救急医療の提供。	必要な医療が受けられると感じる市民の割合	現状値	75.8	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	80
			現状値		19実績	
			20実績		21実績	
		22実績		23目標		

この事業を開始したきっかけ	事業を取り巻く状況の変化	事業に対する市民や議会の意見
・飯田市立病院は、昭和26年12月に開院して以来、地域医療の充実に努めてきた。 ・平成元年に総合病院となり、平成4年には、現在の位置に移転新築し開院した。 ・現在、飯田下伊那の中核病院として、地域医療の充実や周産期医療、救命救急医療、高度医療、がん診療などに取り組んでいる。	・平成14年度以降、多額の欠損金を計上していたが、18年度の決算状況では、前年度比で約3億6千万円の収支が改善した。 ・医師不足の状況下、当地域においてもその傾向が現れている。診療科による偏在もあり、麻酔科、産科、外科などの医師不足が深刻な状況にある。 ・平成18年10月に救命救急センターとして、既存の病棟の中に救命救急病室10床を設け、運用を開始した。 ・平成19年1月には、県内6施設の「がん診療連携拠点病院」の一つに指定され、がん患者に質の高い医療を提供していくための取組がスタートした。 ・平成19年3月末を持って、高松分院を閉院した。	飯田下伊那地域の中核病院として、地域医療の充実に向けての取組を期待されている。 特に期待されている事項 周産期医療 救命救急医療 高度医療 がん診療

## 【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？	(評価) 結びつく (その理由)	有効性評価	成果をさらに向上させる余地はありますか？	(評価) 余地がある (その理由)
	対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		廃止・休止した場合の影響はありますか？	(評価) 影響あり (その理由)
	意図の見直しの必要性はありますか？	(評価) 必要性がない (その理由)		他に類似事業はありますか？また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？	(評価) 類似事業なし (類似事業名、理由)
	市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)	(評価) 必要ある (その理由)		成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？	(評価) 不可能 (その理由)
			公平性評価	受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？	(評価) 妥当である (受益者とその理由)

## 【Plan】改革改善

今後の事業の方向性	何を、いつまでにどうするのかの改革改善案
<input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	平成19年度の業務目標 ・患者中心の医療を实践 ・診療体制の充実(医師や看護師の確保など) ・医療事故防止 ・健全経営の推進(病床利用率90%以上など) ・DPC以降への対応 ・がん診療連携拠点病院として体制等の整備 ・職員が誇りを持って生き生きと働ける職場環境づくり ・医療機関の連携推進 上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法

### 【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	必要性がない	(2) 必要性な場合の実施事由	2- その他、必要が生じたとき
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？			

### 【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	